



名古屋市 子ども・若者総合相談センターの 取り組みについて

センター長 渡辺 ゆりか



子ども・若者総合相談センター概要

◆開所日：月～土（祝祭日除く）

◆開所時間：10時～17時 ◆休業日：日・祝祭日

◆職員体制◆

◇常勤5名 非常勤3名

* 精神保健福祉士 * 社会福祉士 * 産業カウンセラー

* キャリアコンサルタント * 看護師 * 保健師

◇専門員

* 臨床心理士 * 精神科医

* 各専門アドバイザー

（子育て・コミュニケーション・発達障害・法律）

◆相談の流れ

名古屋市
子ども・若者
総合相談センター

◆対象◆
概ね39歳までの
名古屋市内在住の方

ご本人/ご家族

訪問
相談

来所
相談

面談&
プランニング

ご本人/ご家族

相談員

民間支援団体・公的支援機関

同行

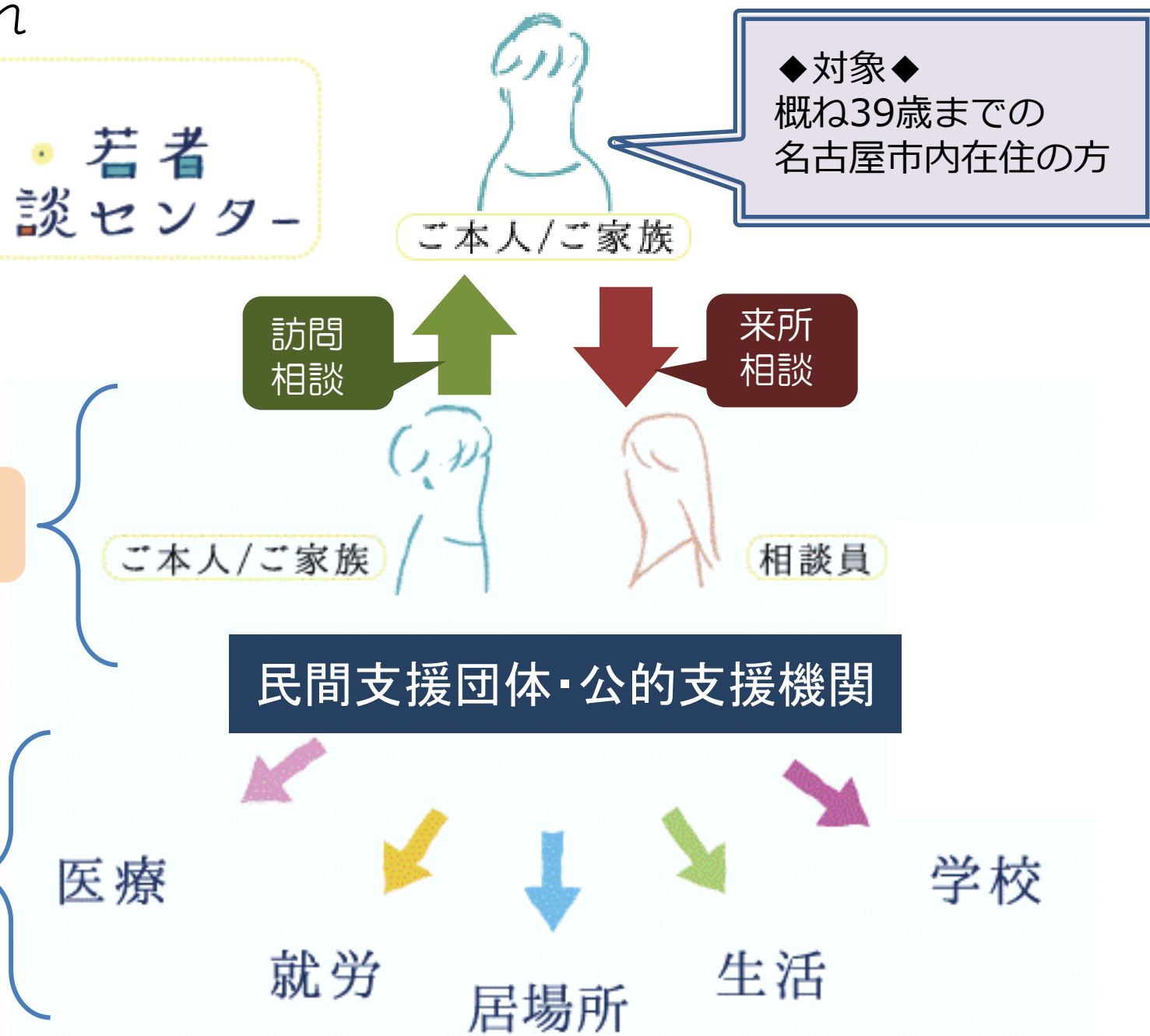
医療

就労

居場所

生活

学校



子ども・若者総合相談センター実績

開所 H25.6/25～H26.3/31まで 実績

◆ 新規 登録件数

321人:1か月平均:35.2人

◆ のべ相談件数(面談・電話・メール等)

2987件:1か月平均331.4件

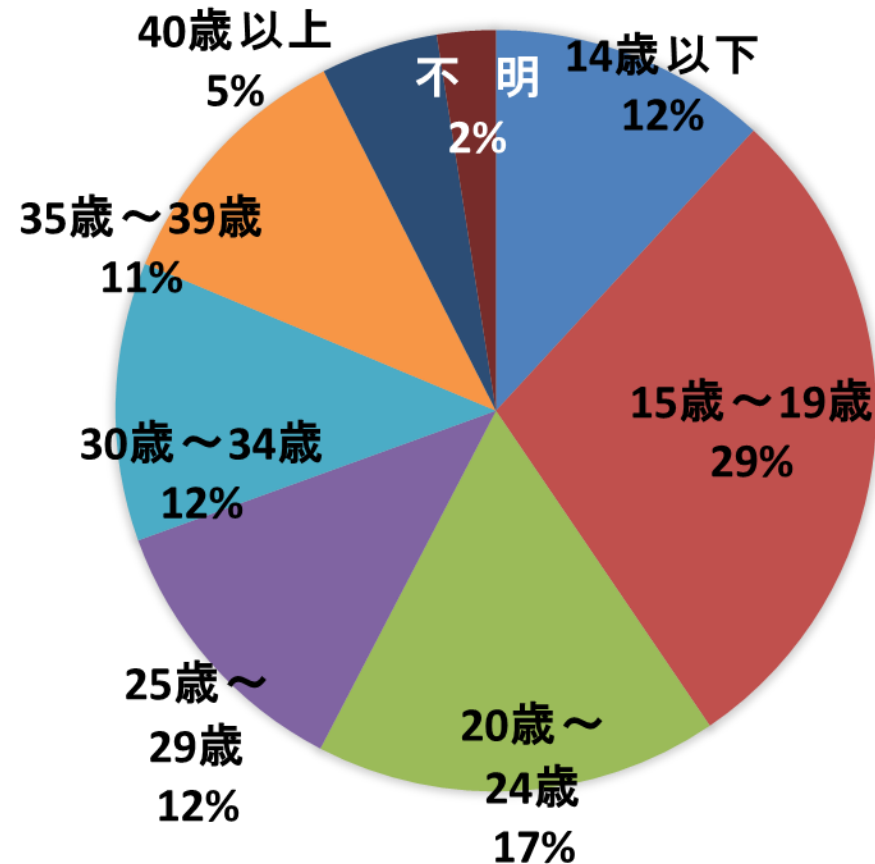
◆ 訪問相談(アウトリーチ)

193件:1か月平均21.4件

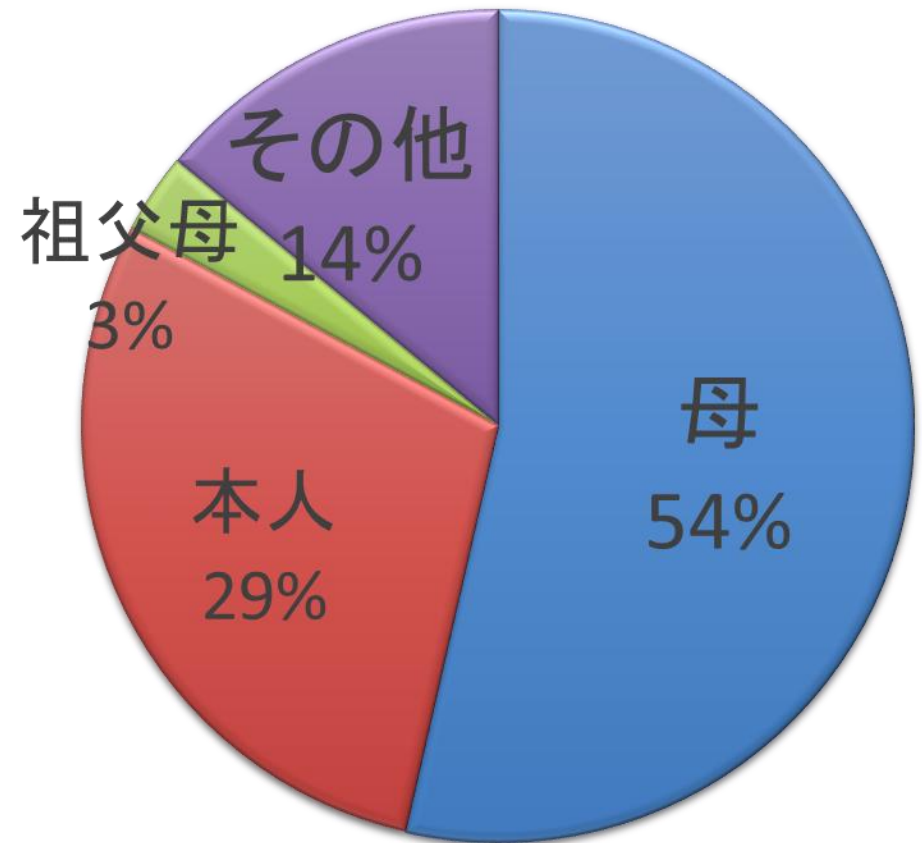
増加
傾向

* 1か月平均は7/1～9ヶ月の平均

◆対象者



◆来所者



-
- ◆20歳以下の対象者のほとんどが母親(保護者)の来所
 - ◆30歳以上の対象者になると、本人が来所する

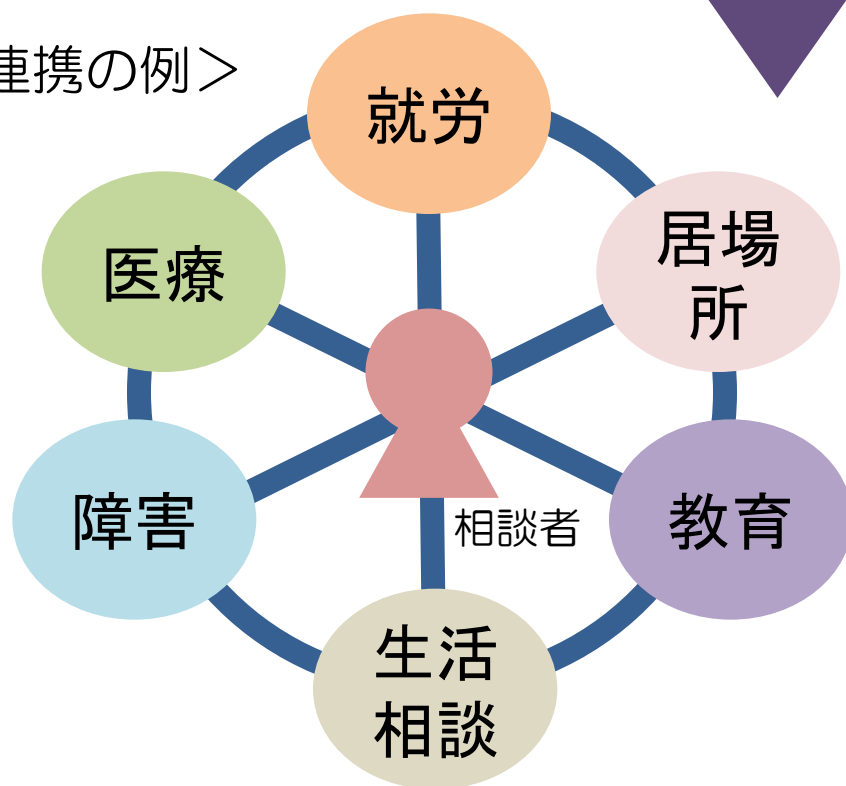
◆相談者の9割以上が、 重複した困りごとを抱えている。

例) 不登校＋発達障害＋親子関係＋暴力

例) 引きこもり＋就労に関する悩み＋人間関係に関する悩み



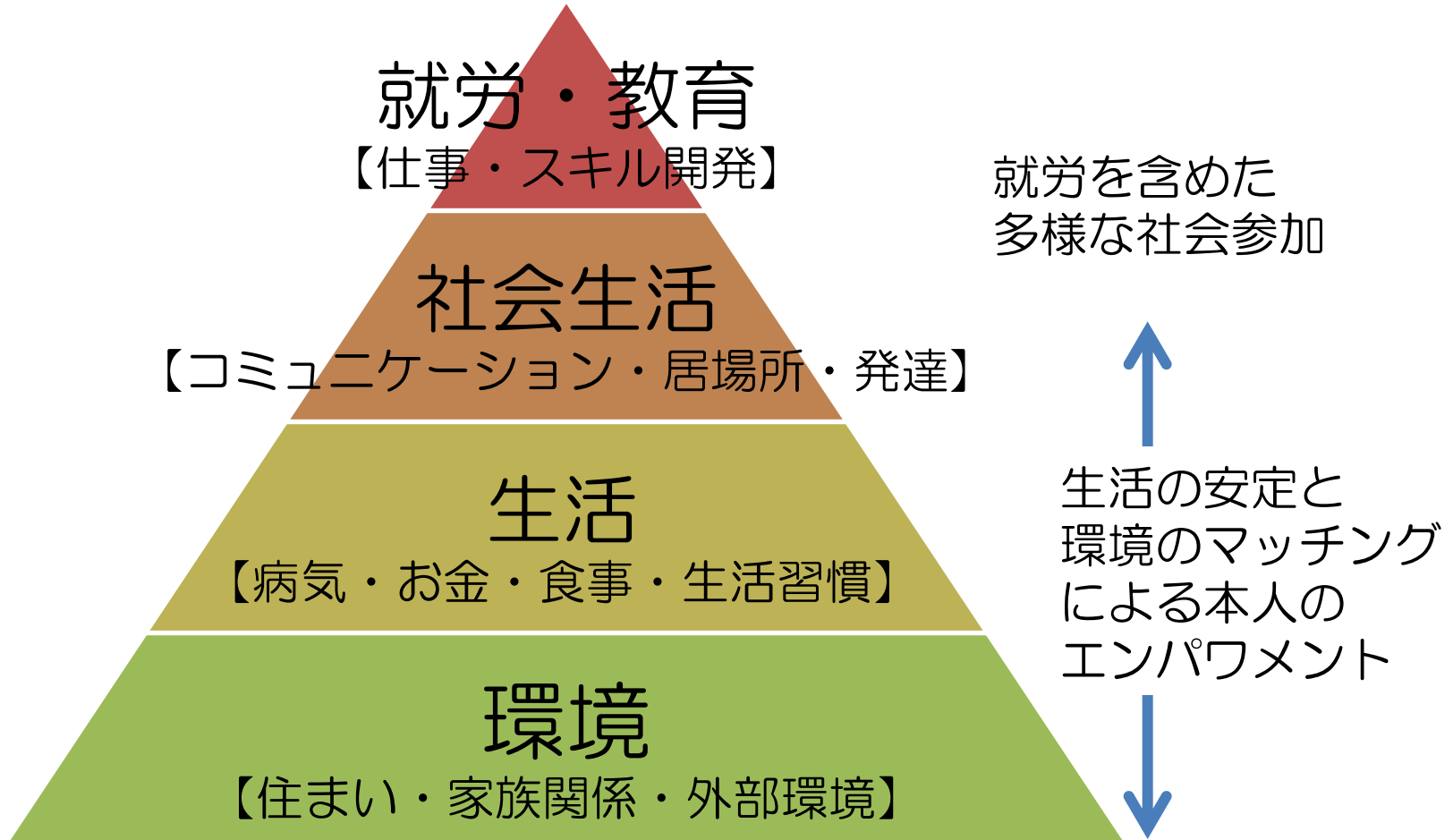
＜連携の例＞



複数同時の悩みには、
複数同時の支援が必要

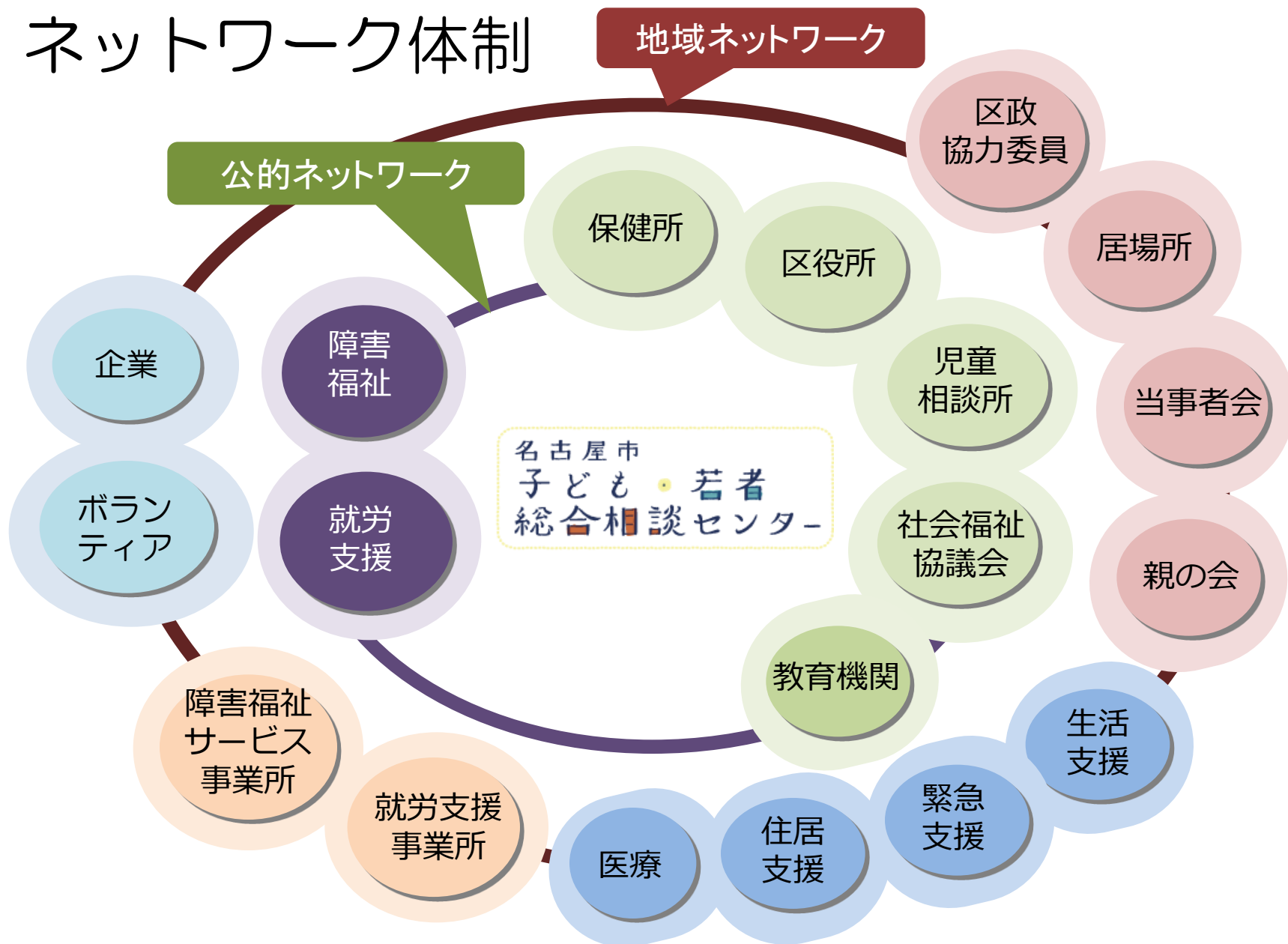
地域での
多分野連携
による
支援が重要

子ども・若者の自立をささえる要素



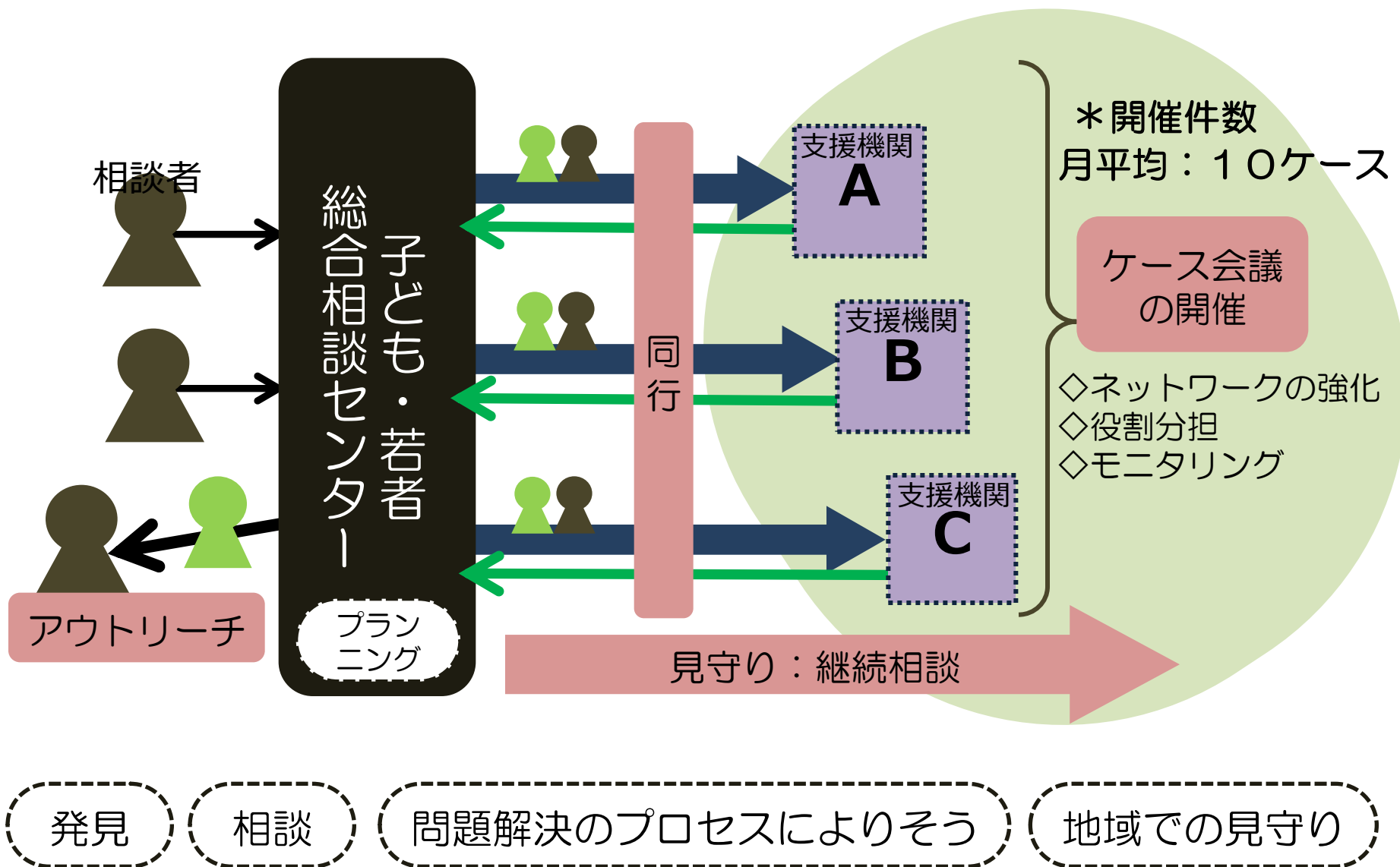
三角形の底辺からの課題が解決されない限り、上部の課題に取り組んでも安定した解決は得られない。むしろ本人にとってのリスクは大きくなる。

ネットワーク体制



官民をこえた、多様な地域ネットワーク

子ども・若者総合相談センターの相談支援体制



子ども・若者総合相談センター 面談相談後の状況



ご本人/ご家族

子ども・若者
総合相談センター

面談・
電話相談
(継続)

支援機関
リファー
75件

◆リファー機関との
連携による継続した
見守り：59件

◆終結：16件
うち 就労：8名
復学・進路決定：4名

見守り・関わりの継続：39件

終結：66件
うち 安定就労：10名
復学・進路決定：6名

◎高校不登校（うつ）：10代◎

→ 継続面談・臨床心理士のカウンセリング
→ 病院同行→ 学校連携 → 復学 → 就労決定

◎未就労・引きこもり（軽度知的障害）：30代◎

家族との面談 → 本人へのアウトリーチ
→ 来所（地下鉄に乗る）支援 → 面談→ 福祉
サービスへのつなぎ→ 就労支援機関見学へ

◎家族への暴力により絶縁、単身ひきこもり◎

→ 今まで本人と関わったことのある支援者や
縁者へのヒアリング→本人のアセスメント
→お手紙・訪問等のアプローチ+家族支援

◎ 中学卒・非行→ 就労先を短期で離職 → 触法
→ 家族との絶縁 → 若年ホームレス

多分野（11分野）の支援機関連携によるサポート
発達障害の受診 → 就職活動開始

◎ 中学不登校（精神障害） → 卒業 →
教育支援機関の家庭訪問が終了 → 引きこもり

障害福祉サービスの利用による、定期的な
家庭訪問の継続 → 居場所スペースへ

◎ フリースクール中退 → 引きこもり → 就労失敗
→ 再引きこもり → 自傷行為 → 医療の未受診

お手紙や家庭訪問での、関係性の構築
→ まずは医療へ